

育子屋NEWS

2021. 7. 1

(お子さんが大人になったとき、社会で活躍できるヒントがいっぱい)

「頭が良い子」と「勉強ができる子」

我が子はどっちに育てて欲しいですか？



みなさんは「子育てのゴール」って何だと考えられますか？

「自己肯定感をつけてあげること」、「自分の好きなこと、やりたいことを見つけさせてあげること」・・・など色々な意見があると思いますが、私の考える子育てのゴールとは、それらも全部ひっくるめて

『本当の意味で「頭の良い子」にしてあげること』

と言えるのではと思っています。では、『本当の意味で「頭のいい子』とは？
『頭のいい子』とは、『勉強ができる子』と同じではないのでしょうか？



よく TV に出演されている齋藤孝さんが書かれた
『本当の「頭の良さ」ってなんだろう？』

今回はこの内容も合わせ、これからは我が子をどのような視点で育てていくべきなのか、まとめてみたいと思います。

「頭がいい」ってどういうこと!?

学生の間は頭の良さを測る絶対的なものさしは「テストの点数」「成績」「偏差値」という目に見える数字で判定、評価されます。つまり「勉強ができること＝頭の良さ」だと言えます。しかしそれらが絶対的なのは学生の間だけなのです。

学生の立場が終わり社会に出れば、頭の良さを測るものさしが「勉強ができること」から急に「社会に適應できること」に切り替わるのです。

例えば一流大学を出て就職したものの、周りの人とうまくコミュニケーションが取れない、今何をすることを求められているのかピンとこない、周りの人のことを考えず自分勝手に（自分の世界で）仕事をする・・・

実は今、こんな若者がとても多いそうです。

当然、このような人たちは社会人になってから「勉強はたくさんしてきたかもしれないが、使えないやつだ」と言われてしまいます。

一方、学生の頃は勉強が苦手で成績があまりよくなかったけれど、大人になってから社会的に大成功を収めている人も世の中にはたくさんいます。

その人たちは、大人になって一気に才能が開花したのでしょうか？
決してそうではありません。

おそらくそういう人たちは、子供の頃からテストの点数や学校の成績などでは測れない種類の頭の良さを持っていたのです。

新しいものを生み出す発想力、人を喜ばせたりやる気にさせたりする優れたコミュニケーション能力、頭で考えるよりもまずは行動してみる行動力など・・・。

学生の間頭の良さは「**学習力（習ったことを正しく記憶しておく力）**」
学校を出てから40～50年間続く、社会人としての頭の良さは「**社会的適応性**」

この違いを念頭に置いた上で子育てをしないと、学生の間は成績がそこそこ良くても、社会に出たら我が子が苦しむこととなってしまいます。では、どうすればそんな「社会的適応性」を伸ばすことができるのでしょうか？

※補足させていただきますが、当然のことながら「勉強を頑張り一流大学に行くことがダメ！志望校を目指して受験するのがダメ！」という意味では決してありません。

そして「社会に出たらは学習力が必要ないから、勉強なんか頑張らなくて良い」ということでもありません。学生の間にはしっかり自ら学ぶことが頭の基礎トレーニングになり、後に必要となる「社会的適応性」を伸ばすことに繋がってきます。

我が子は何かに「没頭」していますか？

これをしていると時間も忘れてしまう。もっともっとやっていたい・・・

こんな経験は特に子供の頃は誰しもがしたことがあると思います。もし我が子は何かに没頭していたら、

「いつまでやってるの！いい加減にきなさい！」

「そんなことばかりやって・・・もっとマシなこときなさい」

などと言いがちですが、**そこはぐっと我慢してとことん没頭する体験をさせてあげてください。**
（ただし「ゲーム」は省きます。脳医学の先生によると、ゲームに取り組んでいる時は脳が思考停止状態なのでゲームは「没頭感覚」の体験に入らないのです）

このように「没頭感覚」で物事を続けると、脳の中で「快感物質」が出るようになるので続けることが苦にならなくなり、続けることで後に自らの成長や上達を感じることができます。（物事には初めから直観的に好きと思って取り組むこともあります。大概のことはやっているうちに楽しくなり、夢中になり、好きになり没頭し、成長したり上達するパターンなのです）

幼児～高校生くらいまでにこの経験をしている子は、その後の人生で『気は進まないけど、やらないといけないこと』に直面した時、没頭感覚による快感を経験しているので、途中で物事を投げ出さずに続けられ、その後の成長・上達に繋がるのです。

もしこの経験をしていない場合は「しんどいだけ」「どうせやっても無理」と考えてしまい、成長・上達するまで物事を続けることができないのです。

学校に行くのは何のため？

もしお子さんにこう質問されたらどう答えますか？ ・ ・ 勉強をするため？

確かに勉強をするためという答えは間違いではありませんが、勉強だけなら家で 1 人でもできます。学校に行く、勉強よりももっと大切な理由とは、

『毎日、他の人と関わりに行くこと』です。

学校には育った環境、性格、ものの考え方の違う人たちがたくさんいます。当然気の合う人、合わない人もいます。そんな人たちと一定のルールの中で一緒に生活し、集団の中のひとりとして、他の人たちとそれなりにうまくやっていく ・ ・ そんな力を養うために学校に行っているのです。

つまり学校は小さな『社会』であり、子供たちは学校に通うことで『将来大人になった時、社会という場で生きていくための練習・予行演習をしている』と言えるのです。

人との距離感、人との間合い、スピード ・ ・ 。最初はどうもいかなくても、小・中・高の 12 年間でかなりの経験値を積むことができます。必要なのは『慣れ』なのです。

様々なことに慣れ、いろいろな状況を受け入れられるようになることは、**自分が広がる**ということ。人間関係力がついてくることも、**自分を広げていく**こととなります。

※「10代の脳は感情の抑制がききにくい」ということが判明していますが、なかなか感情をコントロールできない人も、ある程度の年齢になると感情を抑えられるようになるそうなので安心してください。ちなみに、「音読」や「勉強」をすると感情をコントロールする力がつくそうです。

我が子を、社会で困らない「本当に頭の良い子」にするために

我々が子供だった時は、人口がどんどん増えていた時代でした。企業はどんどん優秀な人材を確保したいので、「学歴のある子は優秀だろう」という考えで、学歴があれば良い会社に就職でき、就職してしまえば終身雇用、年功序列、退職金まで計算できたので、安定した将来を手に入れるために勉強を頑張るという分かりやすい構図がありました。(この時代までは「勉強ができる子」=「頭の良い子」だったんですね)

・ ・ ・ただ残念なことに、これは我々親世代で終わりを迎えています。

2010 年を境に日本の人口は減少の一途を辿っており、企業は今までのように人をたくさん雇って、社員教育をしてじっくり育てていく余裕がなくなってきています。(ちなみに厚生労働省は2035 年頃には日本から正社員という制度がなくなると予測しています)

それに大企業であっても大規模なリストラを行ったり、安定の代名詞であった公務員も今や4割が非正規社員で運営している現状です。

保護者の皆さんにお願いしたいことは、これからの時代を生きる子供たちには、

『勉強を頑張っていい大学に入って、安定した会社に入りなさい』

という昔ながらの価値観を押し付けないことです。学歴があっても良い企業に就職できるかどうかは分かりませんし、今の時代安定した企業などもはや存在しないからです。

齋藤先生は著書の中で、本当の頭の良さは、

- 知・ ・ 知識があるだけでなく、大事な本質をとらえた判断ができるか
- 仁・ ・ 人に対して、誠意、思いやりをもった対応ができるか
- 勇・ ・ 実際に行動を起こすパワー、勇気があるか

で作られると書かれています。学生なので当然勉強は頑張ってもらわなければなりませんが、上記のことも頭に入れ、今後の子育てに役立てて頂ければと思います。

「頭の良い人」ってどんな人??

あなたは「頭の良い人」とはどんな人だと思いますか？テストの点や成績が良い人と答えると思いますが、実は「勉強ができる人」とは別なんですよ。

本当の頭の良さは、テストのように点数で表せない

確かに学生の間は、毎日勉強をして、定期的にテストを受けるので、「勉強ができること＝頭の良さ」と言えますが、それは学生の間だけです。

大人になり社会に出たら頭の良さは「勉強ができること」だけではなく「社会に適応できること」が重要になってきます。

例えば、まわりの人とうまくコミュニケーションが取れるとか、自分勝手ではなく、人のことも考えて行動できるということなどです。大人になっても本当の頭の良い人であるためには、

- 知・・・知識があるだけでなく、大事な本質をとらえた判断ができるか
- 仁・・・人に対して、誠意、思いやりを持った対応ができるか
- 勇・・・実際に行動を起こすパワー、勇気があるか

が必要なのです。学生の間はまずはしっかり勉強に励み、それと同時に「知・仁・勇」に溢れた、魅力的な人間になってくださいね。



偉人の名言

「本当の頭の良さは、「知（判断力）」・「仁（誠意）」・
「勇（行動力）」によってつくられる」

齋藤 孝 ～教育学が専門の明治大学教授～

自分の部屋の目立つところに貼って、読み返すようにしましょう。